

1

罹患数・罹患率

日本女性の8人に1人が生涯のうちに発生

30～60歳代の日本女性がかかるがんのトップは乳がんです。年間約10万人の女性が乳がんの診断を受けていて、年々増加傾向にあります。生涯のうちに乳がんになる女性は、50年前は50人に1人だったのに対し、現在では8人に1人(2023年データ)。国立がん研究センターがん情報サービスによると、今後もさらに増えていくと予想されています。

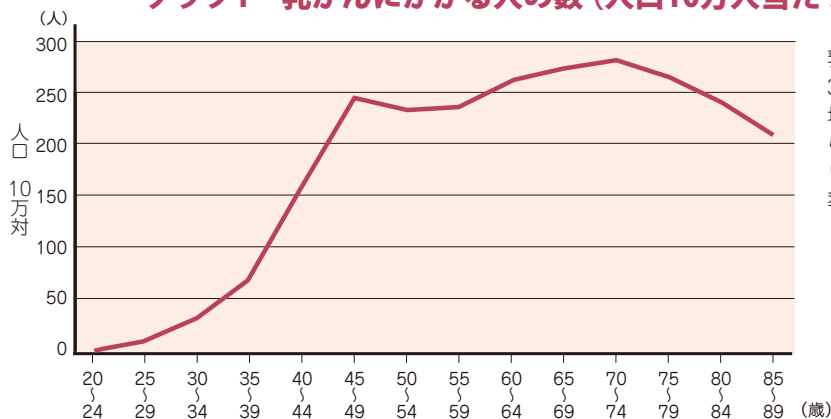
年代別に見ると、乳がんの年齢階級別罹患率(病気にかかる割合)は、30代後半から急激に増え始め、40代後半から70代に大きな山があります。このように、乳がんは女性が家庭や社会で最も活躍する年代に多

いのです。

これは、閉経後の60～70代の女性に乳がんが多い、欧米のパターンに似てきており、生活様式や生活環境の欧米化に深く関係があると言えそうです。今後、欧米のパターンにさらに似てくると考えられています。

また、20代でも全くかからないというわけではなく、乳房を意識して生活する「ブレスト・アウェアネス」(62ページ)は大事な習慣です。若くして発症することもあるので、乳房の異変に気づいたら医療機関を受診しましょう。20代のうちからセルフチェックをするなど、気を付ける必要があります。

グラフ1 乳がんにかかる人の数(人口10万人当たり) 2023年



乳がんになる女性は、30代後半から急激に増加し、40代後半から70代にピークがあります。その後、罹患率は低下します。

出典：国立がん研究センターがん情報サービス「がん統計」(全国がん登録)